

令和4年度 大和市立病院運営審議会 会議録
(第2回)

日時 令和4年10月3日(月)

午後7時から

場所 大和市立病院 3階 講堂北

- 1 病院長あいさつ
- 2 病院職員紹介
- 3 会長あいさつ
- 4 新委員紹介、各委員自己紹介
- 5 職務代理選出
- 6 令和3年度決算について
- 7 大和市立病院の経営計画の点検評価について
- 8 大和市立病院経営計画について
- 9 地域医療支援病院に関する報告について

令和4年度 第2回 大和市立病院運営審議会 会議録(要点筆記)

開催日時 令和4年10月3日(月)午後7時~午後8時45分

開催場所 大和市立病院3階 講堂北

出席者 横田委員(医師会) 楠原委員(医師会)
堀口委員(市議会) 小倉委員(市議会)
相澤委員(利用者の代表) 小川委員(利用者の代表) 加藤委員(市長の認めた者)

欠席者 木山委員(医師会) 川淵委員(学識経験者) 南洲委員(学識経験者)

事務局 病院長 事務局長 病院総務課長 総務調整係長 施設用度係長
医事課長 医事・入院係長 外来係長 診療情報管理センター長 診療情報管理係長
地域連携科長 地域連携科長補佐 経営戦略室長 経営戦略係長
ほか事務局2名

議題 令和3年度決算について
大和市立病院の経営計画の点検評価について
大和市立病院経営計画について
地域医療支援病院に関する報告について

Ⅰ 令和3年度決算について

(事務局)

「資料Ⅰ」に基づき説明。

(委員)

増収理由に高額な薬剤の使用が挙げられていたが、どういう薬剤が主に使用されたのか。

(事務局)

当院は地域医療支援病院であり、クリニック等からの紹介は重症患者の方々になる。そういった重症患者については、高額な薬剤を使用する形となるのでそういった傾向があることは認められているところ。

(委員)

コロナに関係なく今後増えていくのか前年度に比べて高かったということか。

(事務局)

当院の方針として紹介・逆紹介を推進して、重症の患者を診ながら、地域で患者を支えていくスタンスのため、前年度との比較だけの見通しではない。

(委員)

委託費の新型コロナウイルス感染症対策について、外来トリアージとはどういうことか。

(事務局)

正面玄関のところに人を配置して、体温の計測や体温が高い方を外でお待ちいただくように案内する業務。

(委員)

特に資格等は必要なくて良いのか。

(事務局)

その通り。

(委員)

オンライン資格認証システムはどのくらい利用されているか。

(事務局)

件数としては月15件程度。

(委員)

導入で1,200万円ほど掛かっているが、毎年掛かる経費はどのくらいか。

(事務局)

毎年保守費用は掛かるが、高額ではない金額である。

(委員)

先ほど質疑に出た、委託費の新型コロナウイルス感染症対策について、外来トリアージの業務は病院職員で賄わないのか。

(事務局)

市立病院として医療職の職員を外来トリアージに充てる考えはない。

2 大和市立病院の経営計画の点検評価について

(事務局)

「資料2」に基づき説明。

(委員)

実習を受け入れている職種はなにか。

(事務局)

看護師の人数が多いが、それ以外に薬剤師・臨床検査技師等の職員なども入っている。

(委員)

受け入れが減っているのは受入側の問題なのか学校側の問題なのか。

(事務局)

どちらの問題も考えられるが、当院としては緊急事態宣言中受入を中止している状態ではあった。

(委員)

アクシデント件数が0件は良いことだと思うが、ヒヤリハット件数はどのくらいあるのか。また、ヒヤリハットの報告をどう活かしているのか。

(事務局)

毎月100～130件ほどの報告がある。事例を分析し対応策は検討している。

(委員)

医療職の職員数は定数に足りているという認識で良いか。

(事務局)

その通りである。

(委員)

現在待ち時間の問題はありますか。

(事務局)

当院は地域医療支援病院として精密な検査を有することが多く、従前から待ち時間が減らないという状況であったが、昨年度に番号表示のモニターを導入し、可視化出来るようになった。

(委員)

大きな問題点となったクレームはあったのか。

(事務局)

様々な意見を頂き対応しているが、偏った傾向はない。

(委員)

外来駐車場の意見はあったか。

(事務局)

昨年度から今年度にかけてはない。

(委員)

患者満足度調査で入院食についての満足度が落ちているが、どのような原因があるか。

(事務局)

令和2年度より調査方法を対面からネット回答に変更した影響で、入院患者の回答数が減少しており、偏った回答が集まったとも考えられるが、明確な原因は分かっていないのが現状。

3 大和市立病院経営計画について

(事務局)

「資料3」に基づき説明。

(委員長)

逆紹介率の目標が現状の実績より低い70%としている理由はなにか。

(事務局)

地域医療支援病院の要件の最低70%という基準を上回る形とした。

(委員)

全部適用になった場合に、職員の給与等の処遇はどうなるのか。一般会計からの繰入額に変更はあるのか。

(事務局)

職員の処遇について、規定の縛りにより大きな変更は出来ないと考えている。プラスの面でいうと財源を確保すれば手当の新設を柔軟に検討出来ることが挙げられる。繰入の考え方に変更はなく、市側と話していくのは変わらない。

(委員)

全部適用のメリットとはなにか。

(事務局)

手当等を柔軟に検討出来るのはプラス材料。経営責任を明確化するというところで上手く回れば格段に病院経営が良くなっていく傾向がある。

(委員)

近隣公立病院の状況は。

(事務局)

藤沢市は一部適用のまま。横須賀市が指定管理者制度。三浦市・厚木市・平塚市・小田原市が全部適用へ移行済。茅ヶ崎市が全部適用への移行を決定し、来年度移行予定。

(委員)

地方独立行政法人への移行について、設立時に債務超過となる場合は一般会計からの追加出資が必要となっているが、大和市から出資してもらう形となるのか。

(事務局)

現在は債務超過ではないのでそのまま移行出来ると考えられる。

(委員長)

良い方向に進んでいただきたい。

4 地域医療支援病院に関する報告について

(事務局)

「資料4」に基づき説明。

(委員)

コロナ禍の対応で苦勞している点やなかなか退院の決まらない患者にどのような対応をしているのか。

(事務局)

在宅の患者に関して、面会制限等で家族が患者の状況を分からないまま退院することになってしまったため苦勞しているが、リハビリ見学等家族が状況を把握出来るように努めている。コロナ患者の転院に苦勞しているが、相談員が頑張って状況を説明したりして転院調整を進めている。

(事務局)

次回の開催は12月下旬頃を予定。

以上